

え る の お

目次

報告 女性のためのプチ起業講座…………… 1
 報告 女性プラザ祭2014講演会…………… 1

女性プラザ祭2014レポート…………… 2 ・ 3
 インフォメーション…………… 4

報告 女性のためのプチ起業講座

昨年11月29日、東京から講師として有限会社INRコンサルティング代表取締役の古屋由美子さんをお招きし、起業の夢や思いを持つ女性のためのファーストステップ講座を開催しました。

当日は伊達市や岩見沢市などからも参加があり、定員を上まわる申込みがありました。

初めに最近の起業事例をビジネス・キーワードから紹介、次ぎに起業へのステップとして具体的に必要な準備や手続についてのお話がありました。その後グループワークで、自己紹介から自分の想いを話し合ったり、ワークシートに書き込みながら、自分の強みを見つける作業を通じて具体的なイメージを組み立てるなど、たっぷり3時間の充実した内容でした。

参加者からのアンケートには「書き出すこと、他の人に話を聞いてもらうこと、情報提供していただくことで、具体化させることができました。とても有意義なひとときを、本当にありがとうございました。」「有料で開催しても全然良かったと思います。楽しかったし、勉強になりました。男性にレクチャーされるより、女性目線で丁寧に惜しげもなく情報を提供していただけで非常に感謝します。今回来て良かった。先生ありがとうございました。(グループでディスカッションしたのも色々聞けて良かったです。皆さんすごく考えていらっしゃいました。これからは女性の時代なのかも…。)」などの感想をいただきました。



報告 女性プラザ祭2014講演会

村上春樹作品における〈女性〉
 講師 札幌大学地域共創学群
 教授 山崎真紀子さん



村上春樹の小説の多くは「僕」が語る物語形式がとられていますが、対となる女性登場人物の内面の描き方がとても深く、主人公の「僕」と同様に女性も主人公たりうところが面白い。村上春樹は男女が関わることで見えてくる問題を描く作家だと思えます。

彼の作品の中で、女性は今ここにある世界とは別の世界を開く神秘性をまとった存在です。今まで片方の目で見っていたものを女性が現れることで両目でみることができるようになる。村上春樹がよく使う「壁」という言葉で向こうにいる人は、神秘的な世界を担う人、主人公の妻や彼女です。主人公がその内面に入り彼女とともに生きていくことで大切な何かを思い出させてくれる存在、それが彼の作品における女性の役割です。

作品の中で、しばしば消える女性が描かれますが、大事な人を失うことで感情は揺り動かされます。村上春樹は感情こそ文学に描き込むべきものと言っており、私が私である根拠の一つには記憶がある。記憶は感情が揺れ動いた時にとどまり、堆積するものです。

村上春樹は必ず作品の中に謎を残します。謎ははっきり語られず、読者が自分に向けられたメッセージを受け止め埋めていく。それが村上作品の特徴です。

彼は作品でしばしば男女が性を通して深くかかわることで得られるものを描きますが、隠れていた生の扉を開き、深い物語を描く上でも女性登場人物は大切な鍵を握っています。

来年度の女性プラザ祭メイン事業は、
 平成27年11月12日(木)開催の予定です。

女性プラザ祭2014レポート

女も男もワイワイセッション

「地域とつながるパパたちの子育て」

めむろ「パパ・スイッチ事業」
初代表 五十嵐 豊さん



田舎暮らしに憧れて、神奈川から芽室に1ターンし、長男が生まれた時、自営業の妻に代わって僕が育児休業を取ったことが始まりです。その後仕事を辞め、4年間専業主夫をしました。現在は建築会社で時短勤務しながら、妻と三兄弟の父として、めむろパパスイッチの活動をしています。

子育てで最初に感じたのは社会との断絶感でした。毎日会社に行っていたのが突然とぎれる。子育ては孤育てだったというのが最初の印象です。1年ほどで地域の中に子育ての場「ひろば」がある事を知り行ってみました。行くうちにお母さんたちも気にかけてくれて話をしたり相談もできるようになり、子育ての大変さが少し楽になりました。子どもはひとりでは育てられなくて、みんなで育てるものだという事、地域のチカラに気づいたのがこの頃です。

パパスイッチとは、パパは帰ってくるのが遅く仕事も大変だけど、気持ちだけでも家族にスイッチ出来たらいいよねという願いを込め「パパの気持ちを家族にスイッチ」からきています。これは芽室町と僕たちパパスイッチ事業実行委員との共同事業で、町が事務局をし、僕らは企画・運営を担当し、そして地域の育児ネットと関わりながら様々な事を行っています。

パパが参加すると良い点は、ダイナミックな遊びが出来る。おおらかに子育てする。3点目は僕が個人的に感じていることで、子育ては夫婦ですべきだと思うのですが、パパスイッチには実はお母さんもいます。夫婦で何でもやって、みんなで楽しんでる姿を子どもに見せたい。夫婦として生きてる姿を見せたいと思っています。

実際にしていることは、「子育てをもっと笑顔で楽しもう！パパ子育て応援ハンドブック」というタイトルでパパはママを支えようとか子どもに優しくしようという内容の冊子を作り、母子手帳と一緒に配布したり、絵本ライブやキャンプ、映画の上映会や講演会、地元の上の年代の方たちとピザやギョーザづくりや餅つきを楽しんだりしています。

僕たちパパスイッチは芽室（地域）の中のパパ同士さらに、地域で繋がることを目指します。意外にパパ同士、大人の男性同士では仲良くなるのが難しかったりします。地域との繋がりには、昔は自然にあったと思いますが、希薄化しています。そんな今だから世代を超えて声を掛け合う関係づくりが必要ではないかと思っています。友人が「街に守られている感覚だね」と言ったのですが、子どもも大人もお互いに尊重しあう社会を地域でつくっていきたくらいなと思います。

さらに地域外の人とも繋がりたい。パパスイッチは北海道全体はありますが十勝の中でのネットワークはまだありません。それをつくっていきたくらいなと思います。

それとパパが子育てに参加すると、みんなが楽しいということをお伝えしたい。ママ向けの講演会もありますが、ママは子育ては私の仕事だからと、子どもを困らせてしまうことがあるような気がします。パパも子育てするとパパも子どもみんな楽しいということを知って欲しいです。

パパスイッチには、事業に参加してくれる方はたくさんいますが運営する仲間がなかなか増えないという問題点もあります。

でも僕たちは、地域の繋がりをもっとふくらませたいし、子育て世代は地域の方々とつながりたいと思っています。皆さんも、地域の子どもたちとの接点はあまりないかもしれませんが、地域の子育て団体と一緒に何かをしてみたらいいのではないかと思います。単純に子どもを見ることは楽しいし、自分が何かしてあげるのも楽しい。そういうことがつながって、お互いに楽しいねという気持ちをつくっていきたくらいなと思います。

ぜひ、僕たち子育て世代に力を貸してください。

◆◆◆ プラザ祭スナップ ◆◆◆



トークセッション
札幌女性問題研究会



女性セミナー
北海道女性団体連絡協議会



バザー
ボランティア
ビューローコスモス



即売会
女性農業者グループ

「北海道のシングルパパと 子どもたちの笑顔のために」



北海道シングルパパ支援ネットワーク
「えぞ父子ネット」代表 上田 隆樹さん



北海道シングルパパ支援ネットワークは、1月に僕が一人で立ち上げた会で、北海道にこんな会が無くて困った経緯があったのでつくった団体です。

初めに自己紹介をします。2000年に35歳で結婚、2年後長女が生まれごく普通の家庭でした。仕事は、病院の事務長をしておりましたが、5年後奥さんが自宅で突然倒れ他界し、幼稚園年少組の女の子を抱え何の前触れもなく父子家庭になりました。

父子家庭にも色々あり、離婚、死別、そして、もう一つ奥さんが蒸発していなくなるケースもあります。この場合3年間蒸発していることが証明されなければ、ひとり親と認定されないの行政の支援は受けられません。それから、父子家庭にとって有ると無いで大違いなのは実家のバックアップです。僕の実家も妻の実家も遠方でバックアップはありません。よく「出戻り娘」という言葉は聞きますが、父子家庭は出戻りが難しい。出来ない理由は住宅ローンがあったり、今している仕事も簡単に捨てられない社会的な事情や意地があったり、仕事が見つからないなど。パートの募集も女性限定が多く、それは田舎の方が顕著だからです。

普通僕のような場合は、子供を保育園に預けるのですが、娘の心理的な影響が心配で出来る限り環境を変えたくないと思い、大好きな幼稚園にはそのまま通わせてやりたかった。週2回お弁当を持たせ、朝7時15分に頼み込んで園長先生に預かってもらい、帰りは幼稚園バスで保育園へ届けてもらう。そして夜8時に僕が迎えに行く。そんな生活を1年間続け、親子ともくたくたになり転職しました。家で出来るインターネットでの古本屋です。年収は半減以下になりましたが、何とか5年間続け娘が5年生になり、身のまわりのことがある程度出来るようになったので医療機関に復職しました。

幼稚園と保育園を掛け持ちする生活の中で気付いたのは、シングルパパの最大の弱点はネットワークがないこと。仕事を優先すると地域や学校への参加が難しくなり、子どもが孤立してしまう。反対に子育てを優先すると、職場で「あいつは使えない」というレッテルを貼られ、今度はお父さんが孤立してしまう。では、孤立をどう防ぐか？それは、何でもいいから人とネットワークで繋がることです。お父さんが家事や育児など生活に関する何らかのネットワークに繋がっているかどうかによって、子どもの日々の生活が変わってしまいます。

自分の場合は、まず情報を集めようと区民センターへ行きました。そこで見つけた母子家庭支援ガイドブックは9割方母子家庭だけの支援でした。次にインターネットで北海道・父子家庭で検索しても当時は何も出てきませんでした。ところが、全国には頑張っているシングルパパがたくさんいることもインターネットで知り、ネット経由で相談したり励ましてもらったりして、とても安心したことを覚えています。

それでもやはりリアルに人とコミュニケーションしたいと思い、勇気を振り絞って幼稚園の茶話会に行きました。行ってみると当然お父さんは僕一人、くじで席を決められ、隣がたまたまボスのお母さん。事情をそのままカミングアウトすると、携帯のママ友ネットワークに入れてくれました。これが後に凄い力になったのです。

他にアドバイスを受け、習い事教室に顔を出したり、ブログで発信したり、さらに子どもが小学校に入るとPTA会長になりました。副会長などは幼稚園の茶話会で出会ったお母さんたちが今でも自分をサポートして協力してくれています。

皆さんに協力していただきたいのは、シングルファザーがいたら「助けてと言える環境にあるお父さんか」ということを気にかけてあげて欲しいのです。私がシングルファザーを見つけたらPTAや親父の会に誘います。そして、どんなに恥ずかしくても茶話会に出ると。そして北海道にも父子の会が出来たよ、インターネットで検索したらでてくるよと教えてあげてください。とにかく仕事ばかりしてきたお父さんは、生活に関しての繋がりを作るのが下手なのです。

意見交換から

意見交換の中で話された内容では離別の場合の親権について、圧倒的に親権を持つのはお母さんで、父親が会わせてもらえなくなる。参加者から身近に起きた父子家庭の事例として、子どもが朝も昼も食べていない状態でも、パンをあげたらお父さんに怒られるという事に対し、上田さんから「父子家庭など子どもへの虐待があるかもしれない場合、行政の人や先生が訪ねても居留守を使ったり嘘をつくお父さんがいる。そんなお父さんでも、何の肩書きもない近所の人が大丈夫かい？という一言をかけられる地域力があれば、案外助けられる糸口になるかもしれない。僕が今関わっているような親父の会のネットワークづくりも、現在なり手のない町内会の役員候補として、10年後15年後には地域を担う世代になっていく訳ですから、まずは子どもたちのために繋がっておく。実はこういう繋がりやの延長上に今抱える問題解決の糸口があるのではないと思う。」というお話は大変示唆を受けるお話でした。

また、会場から「上田さんはどの時点でお嬢さんと二人で頑張っているという気持ちになられましたか？」という質問に「妻の遺体が家に戻った時、まだひらがなしか書けない娘が最後にお母さんに書いた手紙に「もえもがんばるから おかあさんしんぱいしないでいいよ」と書いてありました。それを見た時に、自分の人生をかけてなんとかしなければいけないと思いました。」という言葉に会場は涙に包まれました。

インフォメーション

情報提供フロアより

ピックアップ書籍 平成26年度新着図書から



小さな起業で楽しく生きる
仲間と始める地域協働ビジネス

ワークス・コレクティブ
ネットワークジャパン 著
ほんの木

新しいパパの働き方
仕事も家庭も！欲張りガイドブック

NPO法人ファザリング・ジャパン 著
学研マーケティング



家族をこえる子育て
棄児・離婚・DV・非行
…を救うセーフティネット

渥美雅子 編著
工作舎



高齢者が働くということ

ケイトリン・リンチ 著/平野 誠一 訳
ダイヤモンド社

配偶者や交際相手を怖いと感じていませんか？

…ひとりで悩まないで相談してみてください DV・デートDVなどの暴力相談機関・窓口

北海道立女性相談援助センター		平日	9:00~17:00
TEL 011-666-9955		夜間電話相談(水曜日)	17:30~20:00
北海道環境生活部くらし安全局道民生活課		TEL 011-221-6780	
総合振興局・振興局	空知 TEL 0126-25-5648	上川 TEL 0166-46-5081	平日 9:00~17:00
	石狩 TEL 011-232-4760	留萌 TEL 0164-43-0011	
	後志 TEL 0136-22-5838	宗谷 TEL 0162-33-3399	
	胆振 TEL 0143-22-5286	森下 TEL 0152-45-0500	
	日高 TEL 0146-22-2921	十勝 TEL 0155-26-9029	
	渡島 TEL 0138-47-5789	釧路 TEL 0154-41-1110	
	檜山 TEL 0139-52-5785	根室 TEL 0153-24-5756	

北海道警察各方面本部警察相談センター TEL #9110 24時間対応(相談専用)

札幌市配偶者暴力相談センター	TEL 011-728-1234	平日 8:45~20:00 土日祝 11:00~17:00
札幌市男女共同参画室	TEL 011-211-3333	平日 8:45~17:15
旭川市配偶者暴力相談支援センター	TEL 0166-25-6418	平日 8:45~17:15
函館市配偶者暴力相談支援センター	TEL 0138-21-3010	平日 8:45~17:30
女のスペース・おん(札幌市)	TEL 011-219-7011	平日 10:00~17:00
ウイメンズネット函館(函館市)	TEL 0138-33-2110	平日 10:00~17:00
ウイメンズネット旭川(旭川市)	TEL 0166-24-1388	平日 11:00~16:00
ウイメンズネット・マサカーネ(室蘭市)	TEL 0143-23-4443	平日 10:00~17:00
駆け込みシェルターとかち(帯広市)	TEL 0155-30-1919	平日 14:00~17:00
ウイメンズ・きたみ(北見市)	TEL 0157-24-7293	平日 13:00~16:00
ウイメンズ結(苫小牧市)	TEL 0144-32-0100	平日 11:00~16:00
駆け込みシェルター釧路(釧路市)	TEL 0154-32-7704	平日 13:00~16:00

*緊急時は110番通報するか、最寄りの警察署または交番に助けを求めてください。(24時間対応)

ケアメン入門講座 開催のお知らせ!



ケアメンとは、親や妻などの介護を担う男性のこと。この講座は、今まで家事や介護の技術を身につける機会が乏しく孤立しがちな男性が、前向きに介護に立ち向かえるように、スキルアップと情報交換(支え合いづくり)の場として活用していただくための講座です。

日時 ▶ 平成27年3月28日(土)
13:30~15:40

会場 ▶ かでる2・7
(札幌市中央区北2条西7丁目)
730研修室・北海道立女性プラザ交流フロア

●福祉用具の展示・紹介

介護する人・される人にも、やさしい最新の福祉用具に実際に見て、触って、使ってみてください。

●男性介護の現状と介護保険制度について

講師：さっぽろ社会福祉士事務所
代表 大島 康雄さん
(社会福祉士・精神保健福祉士)

●介護講習

介護者も介護される人にも、負担をかけない役に立つ介護技術を実際に体験しながら学びます。

●介護交流会(自由参加)

講座終了後、希望される方たちで日ごろの疑問や悩みをざっくばらんにお話ししましょう。

参加料：無料

受付開始：3月2日(月)から
(月~土 9:00~17:00)

定員：30名(パートナーの方も一緒にどうぞ)
申込：電話でお申し込みください。
☎011-251-6349

●「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。

●「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と北(North)の造語です。

発行 / 北海道立女性プラザ(指定管理者：公益財団法人北海道女性協会)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階 (011) 251-6329・6349

【ホームページアドレス】 <http://www.l-north.jp/>

(休館日：日曜・祝日・年末年始) (開館時間：月~金9:00~21:00、土9:00~17:00) *申込・お問い合わせは9:00~17:00にお願いします。